

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか		2		<ul style="list-style-type: none"> ・運動ができる広さではあるが利用者の体格が大きくなるにつれて狭く感じるときもある。縄跳びや走る時に感じるが多い。 ・運動では跳び箱やドッジボールに必要なスペースを確保できている。 ・一方で児童の成長に伴い縄跳びで天井に縄が当たってしまう場面も見られ始めており、高さ確保していけると理想である。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・10人に対してはほぼ2人で活動を見ているが対応自体は問題なく行えている。利用者に合わせて指導や声掛けを行い専門性をもって支援ができていると思う。利用者の嘔吐や別の対応で1人に任せっきりになってしまう事はある為、支援が行き届いていない時もある。 ・基本的に現場での活動を支援していく中では問題のない配置数である。一方で面談や早速等で保護者対応が必要な際にはサブの指導員がつかない場合もある。 ・専門性に関しては定期的な研修を行うことで様々な学びを得る事が出来ている。
適切な支援の 提供	3	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>放課後等デイサービス計画*</u> が作成されているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で利用者の課題を話し保護者のニーズを聞いて作成できていると思う。現状、子供からのニーズは1人のみ計画書に反映している。 ・個別支援計画は保護者や児童の希望を取り入れたうえで職員間でも話し合いを行うことで客観的に作成されている。 ・また、児童本人とも都度確認を行いながら実施していくことで計画の達成に向けて支援を行えている。
	4	運動プログラムが固定化しないようバリエーションを付けた工夫がなされているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して行う運動はほぼ決まっているが内容の難易度を上げバリエーションをつけて運動プログラムを組んでいると思う。SAQも月の運動に合わせて変更している。 ・活動内容が固定化されないように毎月活動内容を変更している。また前年度と同じ活動内容でもコーディネーション運動の内容を変えたり活動開始前に体幹トレーニングを導入したりと常に児童が新しい体験をできるように構成されている。
保護者への 説明等	5	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容に関しては個別支援の面談時に説明して共有できている。利用者負担額についても契約時や質問があった際に説明できている。事業所同士のやり取りは山崎さんが担当しているの何かあった際には情報の共有はできている時が多い。 ・支援の内容が変更になる際(個別の活動内容変更や月の運動が切り替わる時)にはその都度保護者や児童に説明を行うことが出来ている。
	6	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・来所時・迎え時にその日の様子などを保護者に伝えることができている。すきっぷや学校で何がきた、何が難しかったなど会話の中で伝え合うことは大半ができている。利用者の情報は職員間でも伝え合うことができている。 ・送迎対応時を中心に頻りに保護者と児童に関して情報のやり取りを行うことが出来ている。 ・また、活動や学校生活において課題が表出した際には必要に応じて面談を行い共通理解を行うことが出来ている。
	7	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・どうすればスムーズ朝の準備ができるか、友達との関わり方はどうすればいいのかなど対応・面談時に助言はできている。その後、どうだったかの確認もしている。 ・送迎時の対応や連絡帳、電話やLINE等様々な媒体を活用しながら保護者からは相談を受けることが出来ており、その都度必要な助言を行うことが出来ている。
	8	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの確認もできる為、苦情があったには適切な対応ができるように職員間で情報共有を欠かすず行っていく。また、苦情が出ないように利用者に合わせて対応を心がけたい。 ・苦情が出た際には防犯カメラを活用しながら状況把握を行える環境が出来ている。また、すぐに職員同士で情報の共有を行い、対策や再発防止に向けての話し合いを行うことが出来ている。
	9	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者には意思の疎通や情報伝達のため、指示を短くしたり見通しをもたせるために事前に声掛けしたりして配慮ができていると思う。保護者とも送迎時・LINEなどで必要事項な連絡をとることもできている。その際、分かりやすいように配慮している。 ・送迎時の対応や連絡帳、電話やLINE等様々な媒体を活用しながら情報伝達を行うことが出来ている。必要に応じてこちらからも次回利用の案内等を行うことで欠席の確認を事前に行うことも出来ている。
	10	個人情報に十分注意しているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のファイルはしっかりロッカーに保管できている。利用者の写真などを手紙に添付する際にはモザイクをかけて特定できないようにしている。 ・個人情報の流失には注意を払っており、児童の名前が載っている教材や連絡帳の控えは必ず適切な処理を行ってから破棄している。
満足度	11	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2			<ul style="list-style-type: none"> ・年2回行っている。実際に地震があった際には訓練通りに動くことができていた。 ・半年に一回の避難訓練を行うことで指導員・児童共に災害時の避難方法について確認を行うことが出来ている。また、回数を重ねることで児童の中でも「おかしもち」を守れるようになった児童が増えたと感じている。
	12	子どもの社会性*2とコミュニケーション力*3は向上したか		2		<ul style="list-style-type: none"> ・すきっぷでは他児との関わりが多くなりコミュニケーションを取れるようになった児童はいる。社会性はまだまだ向上したとは感じない。 ・促しにより他児に挨拶できる児童が増えてきた。また、休み時間に質問ゲームや1分間スピーチを導入することで他児との交流を増やしていけるよう場面づくりを行っている。
	13	子どもの運動能力・協応動作*4は向上したか	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して協応動作の向上は困れたと思う。縄跳びなどは苦手な児童もいたがその子に合わせて指導を行い半数は二重跳びができるようになった。連続は難しい児童はいる。 ・児童の体調面や利用回数にもよるが、概ね運動能力の向上が見られている。モチベーションの向上も見られており児童から「できるようにになりたい」といった発言が聞かれることも増えてきた。
	14	子どもの視覚認知機能*5は向上・改善したか	1	1		<ul style="list-style-type: none"> ・直写はきれいに完成させることができる児童もいるが、まだなぞりの段階が難しい児童もいる。視写のみ出しや処理速度が課題な児童も多い。視覚トレーニングは月の課題を理解して回数を行えばできるようになっているが指先の微細運動はまだ難しい。 ・4月から直写をお手本と同じ色で塗る方法で実施しているが、その中で児童が色の濃淡を見分けられることが増えてきた。また、視覚トレーニングのマッチング課題ではお手本の通りできる児童が殆どで能力の向上が見られた。
	15	子どもは通所を楽しみにしているか		2		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみにしている児童の中にはいるが、「運動やりたくない」「疲れる」「めんどくさい」などの理由で行き渋りがある児童が数人いる。その都度、児童に合わせて課題を提案して活動に参加できるように促しているが通所を楽しみと思えるほどの成功体験は積ませてあげられていない。今後も活動を行いながらも通所を楽しみと思わせるように支援していきたい。 ・概ねの児童は楽しみにしながら通所出来ているが、一部の児童には行き渋りが見られている。保護者や児童と相談しながら改善できる点はその都度改善を行っていき、少しでも多くの児童が楽しんで来所出来るように心がけている。
	16	事業所の支援に満足しているか		2		<ul style="list-style-type: none"> ・日課・運動を通してできることが増えている児童もいる。授業内容も年間計画に沿って支援できていると思う。 ・児童の成長に応じて様々な対応が求められるが、その都度対応して支援を行うことが出来ている。また、前年度と比べると児童のモチベーションが向上している事を実感しており、引き続き児童が意欲的に参加できるよう支援を継続していきたいと考えた。